

平成26年度男女共同参画社会の
実現の加速に向けた学習機会充実事業

三重大学生
男女共同参画社会
ワールド・カフェに参加

主催:文部科学省 ワールド・カフェ 「100人男子会×女子会(だんじょかい)」

日時:2014(平成26)年6月28日(土)

場所:四日市市文化会館

- ・「ファザーリング全国フォーラムinみえ」の分科会として開催
- ・115名の学生が参加(内三重大学生101名, 共通教育授業「男女共同参画基礎」受講生及び一般学生等)

＜参加者内訳＞

区分		参加者数
三重大学	学生	101
	教職員	9
	小計	110
三重大学以外	学生	14
	学生以外	3
	小計	17
合計		127 (内学生 115, 男子73, 女子42)

・ 目的

1. 「男女共同参画社会」についての現状を知る。
2. 男女で話し合うことを通して、男女の違いや共通点を理解する。
3. 「男性にとっても、女性にとっても生きやすく、共にイキイキ過ごせる社会」についての理解を深め、自分にとっての学びと気づきを得る。

・ 講師

萩原 なつ子 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授

・ ゲストコメンテーター

吉田 大樹 特定非営利活動法人ファザーリング・ジャパン代表理事(当時)

・ ファシリテーター

江口 春斗 三重大学3年生

・ プログラム

- 1) オープニング(主催者代表挨拶, 講師・ゲストコメンテーター紹介, ファシリテーター
自己紹介)
- 2) ミニミニ講義(男女共同参画関係データ等講義)
- 3) ワールド・カフェ
 - ① ワールド・カフェの説明
 - ② 「私の未来像」記入
 - ③ 第1ラウンド: 「私の未来像」紹介, 問1「男女でどのような違いや共通点がありますか?」について話し合い
 - ④ 第2ラウンド(席替え): 問1「男女でどのような違いや共通点がありますか?」について話し合い
 - ⑤ 第3ラウンド(席替え): 問2「男女ともに望むことを実現させるためには何が
必要だと思いますか?」について話し合い
 - ⑥ 第4ラウンド: テーブルごとに問2の答えを「まとめシート」に記入
 - ⑦ 全体共有(各テーブル代表者からまとめを発表)
- 4) ゲストコメンテーターからコメント
- 5) 閉会

仕事・働き方

私の未来想像シート

結婚・子ども

働く上の優先順位は、

1位: _____
2位: _____
3位: _____

正直、せめて、
年収 _____ 万円
は、ほしい！

収入の理想の分担比率は
(男) _____ : _____ (女)

会社員 or 自営業 or 公務員 or NPO職員 or
専業主婦(主夫) or フリーター or
その他(_____)

定年以後は、
_____ したい。

_____ 歳までには、
_____ をやりたい！

死ぬまでには、
_____ をやりたい！

がんがん出世したい or
そこそこいい or
まったりがいい

_____ の分野で
働いてみたいな...

結婚は _____ 歳まで
にはしたいな...

片働き(自分のみ) or
共働き or 主婦(主夫)
がいいな...

子どもは、
ほしい or ほしくない

マイホーム派 or 賃貸派

_____ を趣味に！

家事の理想の分担比率は
(男) _____ : _____ (女)

子どもは、_____ 人
がいいな...

育休は、絶対に取る or
取れたら or 別に...

住むなら、地方暮らし or
都会暮らし or 海外暮らし

※自由欄

趣味・暮らし・生活



文科省生涯学習政策局
男女共同参画学習課 藤江陽子課長

三重大学理事・副学長
男女共同参画担当 朴恵淑



27テーブル作り
1テーブルに5人

会場の様子

全体共有【まとめシート】

相互理解



お金



愛



価値観教育



共通教育 男女共同参画基礎

- 「私の未来想像シート」に取り組むことによって、漠然としていた将来について考える。
- 席替えを通して、短時間に多くの人と対面のコミュニケーションを図ることが出来る。
- 問2「男女ともに望むことを実現させるためには、何が必要だと思いますか」は、かなり大掴みな質問で可能性を残している。
- ワールド・カフェ参加について、ほとんどの学生が積極的肯定。

男女共同参画社会の構築 に向けた 学生の意識改革

2014年6月28日土曜日

主催： 文部科学省生涯学習政策局



学生のための
男女共同参画
ワールド・カフェ
PART3

100人
男子会×女子会!

学生だけの本音ミーティング in みえ

【報告】

日時：平成26年6月28日(土)10:00~12:30
 場所：四日市市文化会館(三重県四日市)
 主催：文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課
 共催：NPO法人ファザーリング・ジャパン
 三重県
 協力：独立行政法人国立女性教育会館(NWEC)
 国立大学法人三重大学
 後援：内閣府男女共同参画局

男女共同参画 ワールド・カフェ

報告書の紹介



はじめに

平成28年6月28日(土)、三浦郡相模原市にて「100人男子会 × 女子会 (ぼんじょかい) 1ー学生生活の本音ミーティング ありあて」をファザーリング全国フォーラム ありあての分科会として開催しました。

このワールド・カフェは、文部科学省における男女共同参画社会の形成に向けた取組の一つとして、これから社会で活躍する学生が、男女の働き方や家庭生活に関する現状を知り、お互いの本音トークをヒントに自身の「生き方」や「働き方」、「男女が共に活躍できる社会」について考える機会を提供することを目的と実施しています。

平成28年度は男子学生のみで「100人男子会」を、平成

29年度は女子学生も加え、「100人男子会 × 女子会」を実施しました。3年目となる今年は、参加者と同じ大学生がファシリテーターとなり、同年代の学生同士による率直な対話が行われました。

本報告書にて、当日の様子をお伝えします。全国に活躍の取組が広がり、多くの方に男女共同参画社会について考えていただくきっかけになれば幸いです。

※過去の報告書については、「男女共同参画社会のために」(PDF) <http://kankai.jp/kumod.go.jp/> または文部科学省ホームページ http://www.moe.go.jp/a_menu/kusai/kyoukoku/index.html を御覧ください。

【参加者について】

参加者：大学生、大学院生、教員
参加人数：115名
(男子73名、女子42名)

ワールド・カフェとは？

ワールド・カフェとは小グループで席替えを繰り返しながら議論を深める話し合いの手法です。あなたも参加者全員が話し合っているような熱量が得られます。

講師

萩原 なつ子

立教大学大学院
21世紀総合デザイン研究科教授
東京国立芸術大学
日本NPOセンター 副代表理事



内閣府「男女共同参画推進委員会」議員、文部科学省「中央教育審議会生涯学習分科会」委員。大学で教鞭をとる傍ら、市民参加型の様々なワークショップに関わり、広範なネットワークを生かして、ユニークで斬新なイベントを仕掛けていく。

ゲストコメンテーター

吉田 大樹

特定非営利活動法人
ファザーリング・ジャパン
代表理事(事務)



1977年生まれ。三児のシングルマザーとして子育てに奮闘中。「労働安全衛生法版」「労働基準法版」「労働委員会法版」記者として、働き方や生き方の変革を訴えてきた。2003年に定額拠出制がもたらしたNPO法人ファザーリング・ジャパン会員となり、理事を経て、2012年に代表理事に就任。内閣府「子ども・子育て会議」委員、厚生労働省「イクメンプロジェクト」推進委員会委員も務める。

ファシリテーター

江口 春斗

二橋大学3年生



大学1年生の時から、三橋大学を拠点に留学生交流団体運営し、気づくりの分野では、3つの専科に入り、ワークショップやイベントに参加、この経験を生かし、学生支援の分野や障がい者支援の分野でも活動中。2年生からは、三橋の隣接地域に留学生と日本人学生で共に活動したり、地域の企業と学生の授業を兼ね合わせるイベントでファシリテーターを務めたりするなど積極的に活動している。



三二二二 講義

講師：森原 なつ子氏

立教大学大学院 経営学修士プログラム専攻 専攻長
立教大学国際文化センターAMPセンター 専任講師

▼男女共同参画の基本理念とは

森原さん、まず、「男女共同参画とは何か」というと、基本的な人権の問題なんです。男性も女性も共に生きやすいということ。それはお互いの人権を尊重し合うことだと思います。この男女共同参画の基本となるものとして、日本国憲法があります。憲法第14条に「すべての人は平等である」とあります。もう一つ重要なものが女子差別撤廃条約です。私たちは国際的観点からも考えていかなければいけません。男女が共に生きやすい社会というのは、グローバルなところにもつながっています。女子差別撤廃条約を批准するために、例えば男女別議会の創設法がつけられたほか、国議会の改正など、様々な国会法の整備が行われました。

【男女共同参画社会基本法】。これを知っている方はどれくらいいますか？ 男女共同参画社会基本法ができて今年で15年目になりますが、この基本理念には5つの柱があります。トップは男女の平等です。2番目が社会における制度・慣行についての配慮。例えば、基本的な場合、最初に男女代理人に勤めたのですが、結婚したら辞めなければいけない、と言わ

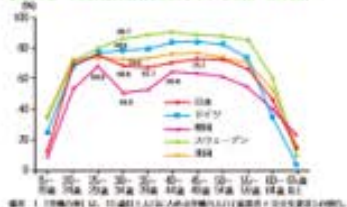


【図1】男女共同参画に関する国際的な指標

順位	国名	GGI	
1	アイスランド	0.972	
2	フィンランド	0.947	
3	ノルウェー	0.942	
4	スウェーデン	0.912	
5	アイスランド	0.781	
6	アイスランド	0.782	
7	ニュージーランド	0.780	
8	デンマーク	0.778	
	105	日本	0.650

【注】 GGIは15年間の平均値を示す。
 1. 2014年 2. 2015年 3. 2016年 4. 2017年
 5. 2018年 6. 2019年 7. 2020年 8. 2021年
 9. 2022年 10. 2023年 11. 2024年 12. 2025年

【図2】年齢別雇用労働力率の変化（女性）



【注】 1. 1980年 2. 1985年 3. 1990年 4. 1995年 5. 2000年 6. 2005年 7. 2010年 8. 2015年 9. 2020年
 10. 2021年 11. 2022年 12. 2023年 13. 2024年 14. 2025年
 15. 2026年 16. 2027年 17. 2028年 18. 2029年 19. 2030年
 20. 2031年 21. 2032年 22. 2033年 23. 2034年 24. 2035年
 25. 2036年 26. 2037年 27. 2038年 28. 2039年 29. 2040年
 30. 2041年 31. 2042年 32. 2043年 33. 2044年 34. 2045年
 35. 2046年 36. 2047年 37. 2048年 38. 2049年 39. 2050年
 40. 2051年 41. 2052年 42. 2053年 43. 2054年 44. 2055年
 45. 2056年 46. 2057年 47. 2058年 48. 2059年 49. 2060年
 50. 2061年 51. 2062年 52. 2063年 53. 2064年 54. 2065年
 55. 2066年 56. 2067年 57. 2068年 58. 2069年 59. 2070年
 60. 2071年 61. 2072年 62. 2073年 63. 2074年 64. 2075年
 65. 2076年 66. 2077年 67. 2078年 68. 2079年 69. 2080年
 70. 2081年 71. 2082年 72. 2083年 73. 2084年 74. 2085年
 75. 2086年 76. 2087年 77. 2088年 78. 2089年 79. 2090年
 80. 2091年 81. 2092年 82. 2093年 83. 2094年 84. 2095年
 85. 2096年 86. 2097年 87. 2098年 88. 2099年 89. 2100年

れて辞めました。「これからどうするか」といった質問がまだまだ続きます。

そして3番目は、企業等の企業および社会への共同参画。例えば、企業等の取締役会の女性と男性の議席の割合がどうなっているか、知っている方はいますか？ これも重要で、物事を決定するところでの男性と女性の割合は、本来、フィフティ・フィフティのはずですが、なかなかそうはなっていません。企業でも何か大きなものを買ったりするなど、何かを決めるときに、父親だけで決めるのではなく、夫婦で話し合いながらあるいは子供も一緒に協力して決めていく、これが共同参画ということ。4番目が、家庭生活における活動と他の活動の両方、ワーク・ライフ・バランスです。そして5番目が労働環境の改善です。

しかし、これらを行わなければならない状況にあることを認識してください。未来ならば言わなくていいことなのですが、言わなければならない状況にあるよ、ということ。

▼国全体で女性の活躍を推進

この数字の意味は？

105

それは、数字を覚えてこうと思います。「105」この数字を聞いたことのある方はいますか？これは、世界経済フォーラムという国際団体が各国の男女平等を測るジェンダーギャップ指数を算出しているものです。日本は昨年135位中101位でしたが、105位まで落ちてしまいました。なぜ105位に落ちてしまったかというと、女性の衆議院議員の数が減ったからです。それで日本の女性の国会議員は衆議院側だ、と言われました。私は選挙分野も研究対象として

ますが、生物多様性を研究しているとか議院側の場合は不利な保護。そして経済的な保護がとられるものですが、衆議院議員の女性は、数が減っても不利な保護はされていません。ほかの国ではアフーマティブ・アクションという方法がとられている例もあります。

この数字の意味は？

202030

次の数字、「202030」。2020年までに期待的な進捗を占める女性の割合を30%以上しようと、目標日誌としている数字です。国家公務員の採用者や、専門性の高い職業に就くする者など、物事を決定する地位にいる女性を30%以上しようとということです。

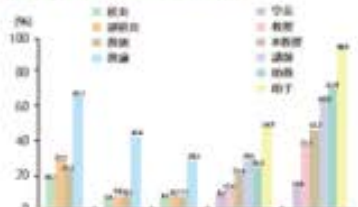


【図3】各分野における「国際的価値」等に占める女性の割合



【注】 1. 2019年 2. 2020年 3. 2021年 4. 2022年 5. 2023年 6. 2024年 7. 2025年 8. 2026年 9. 2027年 10. 2028年 11. 2029年 12. 2030年 13. 2031年 14. 2032年 15. 2033年 16. 2034年 17. 2035年 18. 2036年 19. 2037年 20. 2038年 21. 2039年 22. 2040年 23. 2041年 24. 2042年 25. 2043年 26. 2044年 27. 2045年 28. 2046年 29. 2047年 30. 2048年 31. 2049年 32. 2050年 33. 2051年 34. 2052年 35. 2053年 36. 2054年 37. 2055年 38. 2056年 39. 2057年 40. 2058年 41. 2059年 42. 2060年 43. 2061年 44. 2062年 45. 2063年 46. 2064年 47. 2065年 48. 2066年 49. 2067年 50. 2068年 51. 2069年 52. 2070年 53. 2071年 54. 2072年 55. 2073年 56. 2074年 57. 2075年 58. 2076年 59. 2077年 60. 2078年 61. 2079年 62. 2080年 63. 2081年 64. 2082年 65. 2083年 66. 2084年 67. 2085年 68. 2086年 69. 2087年 70. 2088年 71. 2089年 72. 2090年 73. 2091年 74. 2092年 75. 2093年 76. 2094年 77. 2095年 78. 2096年 79. 2097年 80. 2098年 81. 2099年 82. 2100年

【図4】教員に占める女性の割合



【注】 1. 2019年 2. 2020年 3. 2021年 4. 2022年 5. 2023年 6. 2024年 7. 2025年 8. 2026年 9. 2027年 10. 2028年 11. 2029年 12. 2030年 13. 2031年 14. 2032年 15. 2033年 16. 2034年 17. 2035年 18. 2036年 19. 2037年 20. 2038年 21. 2039年 22. 2040年 23. 2041年 24. 2042年 25. 2043年 26. 2044年 27. 2045年 28. 2046年 29. 2047年 30. 2048年 31. 2049年 32. 2050年 33. 2051年 34. 2052年 35. 2053年 36. 2054年 37. 2055年 38. 2056年 39. 2057年 40. 2058年 41. 2059年 42. 2060年 43. 2061年 44. 2062年 45. 2063年 46. 2064年 47. 2065年 48. 2066年 49. 2067年 50. 2068年 51. 2069年 52. 2070年 53. 2071年 54. 2072年 55. 2073年 56. 2074年 57. 2075年 58. 2076年 59. 2077年 60. 2078年 61. 2079年 62. 2080年 63. 2081年 64. 2082年 65. 2083年 66. 2084年 67. 2085年 68. 2086年 69. 2087年 70. 2088年 71. 2089年 72. 2090年 73. 2091年 74. 2092年 75. 2093年 76. 2094年 77. 2095年 78. 2096年 79. 2097年 80. 2098年 81. 2099年 82. 2100年



なぜかという、国家公務員の中でも認定知識以上は女性が少ないのです。企業でもトップにいる女性が少ない。私は大学の教授ですが、女性の教授も実は大変少なく、全体の13%しかいません。今、大学生は半分以上が女子学生なので、女性の地位を問うておきます。

また、地域づくりということが言われていますが、自治体もほとんどが男性です。これがどういう問題を引き起こすか、東日本大震災のようなことが起こると、再生医療の際に男性だけで物事を決めてきたところでは、いろいろな課題が起きやすいという状況があります。ですから、今、地域の中でも物事を決定するところの女性の割合を30%にしようという女性参画への動きが求められているのです。

それから、労働力率、女性の年齢別就業力率の使われるグラフです。なぜ男性は赤字、女性はM字なのかという問題を改めて考えておきたいと思っています。

また、第60回以上の長期定住者をしている男性の割合は非常に高く、大問題です。国際的に見て明らかに低すぎる。男性に一生懸命「家計のことも地域のことも一緒にやろうよ」と言ってもなかなか難しい現状があります。

そして、男性の育児・家事時間は、女性に比べて非常に短い状況です。そのためにファザーリング・ジャパンは全国大会を開催している。父親も一緒に協力し合って頑張ろうじゃないか、ということですね。

今、共働き世帯の割合が多くなっている状況の中で、女性の長時間労働も非常に問題になっています。もっと仕事も家庭も、それから地域活動や趣味など、さまざまなことをしていけるパワフルキャリアのようなものを目指すには、私たちがどういう働き方、生き方をしたらいいかわかりませんが、皆さんがこれからの社会を引っ張って行く役割を担っていく上で、一つの課題だと思います。

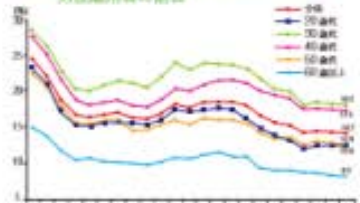
そして今、私から女性の活躍促進に関する方針が述べられています。女性たちの働きを応援するというので、さまざまな施策がとられるようになってきました。昨日も内閣府で活躍する女性を奨励する「女性のチャレンジ賞」の授賞式がありました。厚生労働省で子育てサポート企業創くるみんなマークで認定したり、内閣府では「おエール! ジャパン、Change! JPN」というキャンペーンを行っています。一つ働き方を広げてみよう、一つ生き方を広げてみよう、まず何かを変えることにより社会を変えていこうという試みです。経済産業省でも、多様性を認める企業づくりをしているところを表彰する「ダイバーシティ経営企業100選」など、国が関心の中でも施策が促されています。

男女の性別に関わりなく、多様な働き方や生き方の可能性があり、その人らしくの生き方に生きられる社会、それぞれが自分にふさわしい生き方、ライフスタイルを選択できる社会、誰もが働くことと家庭生活、地域生活を楽しめる社会、そういう社会をつくっていくべきだというのが、この男女共同参画の大きな目標となっています。

皆さんには、これからワールド・カフェをさせていただくのですが、男性もいろいろな人がいて、女性も多様だと思います。それぞれの思いを認め合い、お互いに理解し合っていく。そして、自分らしく生きていく社会をつくっていくためには、自分は何ができるのかということも一緒に考えていただければと思います。

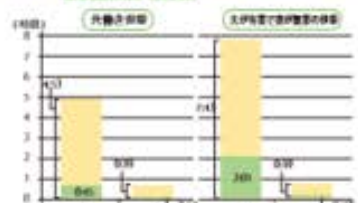
皆さん、楽しんでまいりましょう。

【図5】年齢別・就業時間が長60時間以上の男性雇用者の割合



資料 総務省「労働力調査」
1. 性別、就業時間別、年齢別、雇用形態別
2. 2002年～2022年、51歳～60歳未満の男性
注: 横軸は10歳刻み年齢(2002年)

【図6】労働力調査の子を持つ夫婦(夫婦と子供の世帯)の家事時間内訳(週2回)



資料 総務省「労働力調査」
1. 性別、就業時間別、年齢別、雇用形態別
2. 2002年～2022年、15歳～64歳未満の夫婦
注: 横軸は10歳刻み年齢(2002年)



ワールド・カフェ

今回のワールド・カフェは100人を迎える人数が集まり、27テーブルとなった。1テーブルに男女混合でも8人ずつ程度につき、1ラウンド終了ごとに席替えをし、互いの意見を広く共有。「男女共同参画社会」について自分にとっての学びと気づきを得ることを目的とした。

ワールド・カフェの導入



ファシリテーターは氏の挨拶があり、今回のワールド・カフェの決め、話し合いのルール等が説明されました。



- 議論ではなく対話を、どんな意見も否定せずに聴取し、みんなで対話を進めよう。
- 観望者は共通のメモ帳、自分たちの考え、気づきを可視化しよう。
- ファシリテーターが手を挙げたら観望りの合図、自主的に対話をやめよう。



本日の目的

1. 「男女共同参画社会」についての現状を知る
2. 男女で話し合うことを通して、男女の違いや共通点を理解する
3. 「男性にとっても、女性にとっても生きやすく、共にイキイキ過ごせる社会」についての理解を深め、自分にとっての学びと気づきを得る

【私の未来理想シート記入】

各自の千紙にある「私の未来理想シート」にそれぞれ記入します。理想の仕事や働き方、結婚、子ども、趣味、暮らし、生活スタイルなどのテーマに分けた質問項目に答えていきます。



第1ラウンド

[15min.]

問1

男女で、どのような違いや共通点がありますか？



いよいよ第1ラウンドの始まりです。
全員が問1を取り出します。



スライドで皆で問1を共有します。



「私の未来想像シート」を使って
自己紹介しながら、
問1について意見をいいます。

【何で、何で】とどンドン
突っ込んで聞いてあげましょう。



意見に対して互いに賛同し合ったり、
共有しながら対話を進めます。



紙滑紙にメモもし、それぞれの
気づきを目に見える形にしながら
対話をします。



移動人もテーブルを
回って聞いています。



見やすいように、
太めのマジックで
書いてあげて
ください



ファシリテーターが手を挙げて
終わりの合図を出します。



ここで席替えです。
1人がテーブルホストとして残り、
他の4人は席を移動します。

第2ラウンド

[20min.]

問1

男女で、どのような違いや共通点がありますか？



男女混合で席に着き、
第2ラウンドの始まりです。



挨拶と自己紹介からはじめます。



第1ラウンドと同じ問1について
2回目のラウンドです。



テーブルホストが移動してきた人に
そのテーブルで出ていた意見を話します。



移動してきた人も自分のテーブルで
出た意見を共有します。



活発にいろいろな意見が
出ています。



深い気づきや共通点が増えるよう
紙滑紙に書き込んでいきます。



手が足りなくなりました。
ここで第2ラウンド終了。
席替えです。



テーブルホストを残し、
他の4人が違うテーブルに
移動します。

第3ラウンド

[20min.]

問2

男女ともに望むことを実現させるためには、
何が必要だと思いますか？



問2の封筒を開けます。



新しい問いになりました。



これまで話し合ったことを生かして、
今度は未来のために話し合ってください



自己紹介をしてから、
対話に入ります。



第1ラウンド、第2ラウンドで
出た意見や感じたことを共有して、
問2に入ります



対話することに慣れて来たのか、
どんどん意見がでできます。



ファシリテーターの千が卒がり、
第3ラウンド終了です。



「まとめシート」が
配られます。

第4ラウンド

[15min.]

問2

男女ともに望むことを実現させるためには、
何が必要だと思いますか？



商談をせずに第4ラウンドに
入ります。



「まとめシート」が配られたか
子を挙げて確認。



これまで男女の思いと過去、
今と未来と話してきましたね。
ここで問いの答えをシュツと
要約して、ワンフレーズで
書いてください。



「まとめシート」に
そのテーブルの答えを
ワンフレーズで書きます。



すぐにワンフレーズが
決まるテーブルもあれば、
なかなかまとまらないところも。



だんだんまとまってきました。



第4ラウンド、早かったですね。
所さんまとめるのも早くて、
すごくスムーズなのが、
すごいなと感って見ていました。



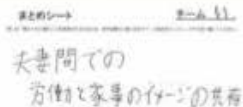
全体共有

[15min.]

【まとめ】



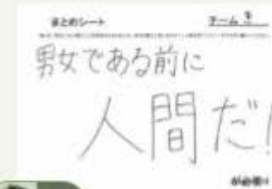
私たちのチームでは、一言で言うと「お金」です(笑)。事はあまりないかもしれませんが、理由は2つ。1つ目は「何れともあれ、収入は大事ですよね」と。収入がないと結婚や子育てなど、やりたいことができないからしれないというのが理由です。2つ目は「結婚は90代までしたい」という人が多く、その間使ったりや仕組みをつくるには、やはりお金が大事だという話になりました。また、「お金」と言い下下「思いやり」と言いなんです(笑)。お金だけではなく思いやりも大事だと思います。



私たちのワンフレーズは「夫婦間での労働と家事のイメージを共有することが必要」になりました。例えば家事一つをとっても、男女それぞれが家事に持っているイメージは結構違うと思います。

女の人は主体になって家事をやる。例えば、赤ちゃんのおむつを替えたりなど、男いことでも何でもやるという意識があると思うのですが、男の人は、「いや、男いことではできない」というような、あくまでリブに回る家事だと思います。

そこをまず男女で共有して、じゃあ実際どういった家事をやらなければいけないのかというところから始めることが必要だと思いますので、「労働と家事のイメージの共有」ということになりました。



私たちは「男女である前に人間だ!」です。そもそも育児は男女ともに行うべきものなので、イクメンという言葉自体が不自然だと思うのです。そうではなく、男、女を抜きにして、人として一緒に社会をつくっていくという考えに変わればすごくいいのではないかと、という意見です。

また会社でいうと、男ばかりが意見を言ったりがちと聞きますが、そうではなく、女の人も一緒に頑張っていきたいな、という方向にできれば、もっと活動や考えに幅が出てくるのではないかと考えました。

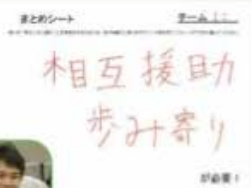


私たちは「相互理解」になりました。夫と妻だけでなく、両親との同居や独身の人も、家族の範囲はさまざまであるということを実感において議論しました。

もちろんお金は必要だという意見も。でも、お金がない人は結婚できないのかというところではない、愛が必要ではないか。その次に、愛と相互理解はすごくつながっているの、相互理解に。夫婦間だけでなく、社会に自分の意見を発信して、社会からも認めてもらうことも相互理解です。それができれば、それぞれやりたい人生を送れるのではないかと、とまとまりました。



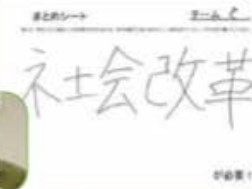
私たちのチームでは、「愛」となりました。現実的には「お金」も大事だけれどという意見をもちつつ、お互いの思いや心が必要だということになりました。あと家事の分担についても、知らないことが出てくる場面があるだろう。その知らないことをどう乗り越えたらということも課題に。知らないことでも楽しんでやれるという気持ち、前向きな気持ちが必要ではないかと。ですから、知らない壁にぶつかってもそれを乗り越える自分たちの役割をつけていこうと決めました。



私たちの想は、2フレーズ「相互援助」と「歩み寄り」です。「歩み寄り」というのは難しく言えば変換ですが、お互いが望むことを実現させるためには、例えば「僕は今日とても旅行したい気分になったから、家事とかよろしくね。また今度、そちらがやりやすいことがあったら僕が頑張るから」というように、お互いに歩み寄ることによっていくのではと、結婚生活でもそうですし、男女でなくても個人同士、お互いに歩み寄ろうまくいく方法ではないか。僕たちの想ではこれが必要だと思いました。



私たちのチームでは、「価値観教育」となりました。今、女性が望んでいることは、社会裏面です。地方議会や女性議員が聴えないのは、地元しがらみなどが多く、立候補をしてもあまり良く思われないからだ聞いたことがあります。そういう価値観ではなく、みな同じなんだよと認識させる教育が必要です。政府としての教育も必要ですし、自分たちが親として、子どもに対しての教育としても必要ではないかと思い、価値観教育を選びました。



私たちは、「社会改革」を選びました。これは今までどのグループも出していなかった意見だと思うのですが、そもそも法律整備や制度整備をしない限りは、社会に根づいていかないんじゃないかと。

例えば、育休の制度もそうです。イクメンという言葉がやっているだけで、実際に育児休暇をとっている男性は少ない。今後は法律でしっかり制し、育児休暇を男性に与えない企業に罰金を与えるなど、改革が必要かと思い、この意見を言いました。

全体共有

[15min.]

【まとめ】



異性の立場に
立って考える
姿勢!

思いやり

思いやり

リスペクト

相思相愛

愛情尊重



主張を相手の
理解



価値観の理解



価値観の共有

男女の違いは無く
個人の価値観
の一致

男女の価値観
のちがいを認めること

コミュニケーション

2人で
話し合うこと

妥協

勉強尊重制度

かね



ゲストコメンテーター からのコメント

吉田大樹氏

特定非営利活動法人
ファザーリング・ジャパン代表理事(当時)

萩原 なつ子氏

立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授
特定非営利活動法人
日本NPOセンター 代表理事

▼男女ともに自立をしていくことから

萩原 吉田さん、皆さんのテーブルを見て回ったり、発表を聞いたりして、どんなことを感じられましたか。

吉田 率直な意見が飛び交っていたので、非常に参考になりました。気になったことの 1 つは男女の世帯についての考え方です。収入での男女比率が7:3、家事での男女比率が3:7になっている人が多かったですね。それは朝日送られたイメージのかなと思います。

息児にもありますが、夫婦で、また、夫婦になる前の彼女、彼氏のときにその割合をきちんと話し合っていてできれば一番いいと思います。それが結果的に、例えば8:2でもいいと思います。ただ、まだ相手もいない状況で、もう7:3がいいと思ってしまうのは危険です。できればフラットであってほしいと思いました。

あとは育休です。女子は「絶対育休をとる」に〇をつけている人が多いのですが、男子は「育休が取れたら」としていました。それは状況が許したら取ろうかな、というマイナス思考ですね。僕は次女が生まれたときに、1 か月半の育休を取りました。特に男性の場合は、社会人になってしまうと家事や育児に触れる時間はなくなります。その大変さが理解できないまま、相手に



ある母親のことを理解しようと思っても、十分理解できないという状況が続く。それが偏執的になり、結果的に離婚をしてしまうというケースも出てくる。3 割に 1 割くらいが離婚してしまう世の中です。そこには、男性が育児、家事を理解していないという状況があるのではないのでしょうか。

そのことを理解するために、僕は育休が必要だと思っています。1 日とかではなく、せめて1 か月とか2 か月、家事や育児をする。僕の場合は毎日公園や児童館に子供を連れていき、1 日中遊んでいました。そうしたら、その1 か月半で3kg やせて、育休ダイエットができてしまいました。その結果、それは子育ては大変なのだ、自分自身の中で理解することができました。ふだんからもっと関わってほしいと思います。その気持ちがなくて、どんどん気持ちがずれていく気がします。とはいっても、僕は3 児のシングルファザーですが、(笑)

ふだんから家事や育児をやったかなと思うのは、妻がうちを出て行ったときに、子供たちが「ママ、ママ」と泣き叫ぶこともなく、毎日しっかり過ごされたことだと思います。子どもは自分のことは自分でやっています。

萩原 つまり、自立ということですね。

吉田 そうですね。

萩原 自立というのは「4 つの自立」が大切と言われています。社会的自立と精神的自立、経済的自立、そして生活者としての自立。これは男女問わず必要だと思います。その辺りはどうですか。

吉田 始めから「あれはできない、これはできない」としてしまえば、結局それが現実になってしまいます。例えば、僕は男だから料理ができない、というハードルをすでに設けてしまっている男性が多いです。世の料理人の多くは男性です。そう考えると、自分でハードルを立てているからできないという状況になり、スキルも一向に上がらないということになってしまっているのではないのでしょうか。コツコツとやり続けるからこそ、家事のスキルも育児のスキルも上がるのです。

男性はうちのついでおしめを取り替えてあげられないという意見を聞きましたが、僕が育児が一番好きだったのがその取り替えだったんです。僕はおしめ拭きを3枚以内で必ず拭き替える、というミッションをもって毎日、おしめを持ってやっていた。そうすると、すごく楽しくできるわけです。

萩原 環境にも優しいよね。

吉田 そうですね。家事も育児も「やらなければいけない」という状況に押し込まれてしまうと、モチベーションが上がらないわけです。僕はシングルなので、毎日料理を作ります。そこでだらだら続けられなかったので、夕食は同じものを1 か月に2 度作らないという目標を決めた。そうすることで自分の中に遊び心が生まれ、モチベーションアップにつながっていく。それが自分の生活の自立に役立っていく。

萩原 ねばならない、ではなく、どのようにエンジョイしていくか、という話ですね。

吉田 年をとって、介護に委ねなければいけないという状況になる可能性もあります。だからこそ、自立、自活で生きていくことで、できる限り自分自身でできる範囲を確保していくことが大事だと思います。



▼多様な個性を認め合って理解がはじまる

萩原 先ほど皆さんからの意見で、社会変革が必要という話が出たのですが、制度や法律というのは、実は動揺に動揺している方たちの働きがあって、これは必変だ、ということでも法律になるケースもあります。皆さん自身が、社会変革の担い手になっていくということも考えてほしいと思います。

吉田 持っているだけでいいのだと思います。育休も自分から取るという気持ちを持つことで、まず変わっていくわけです。「取れたら」と言っていると、絶対にみな取らないですね。僕は26 才のときに子供ができて、3 人生まれて、そのときに対応しながら乗り越えてきたと思います。仕事だけをやっていてではなく、仕事と生活の割合を考えながらやっていくことが大事なのです。

萩原 多くの皆さんが偏執的共有、相互理解というキーワードをあげました。あるところでは妥協という言葉もありました。多岐寄りとか、つまり、相手によく知り理解し合う、利他性のよくなるのがやはり大事だということは、皆さん共通に感じられたかと思います。

吉田 そのためにはコミュニケーションが大事ですね。

萩原 コミュニケーションも大事だと思います。

吉田 夫婦だと、わかったつもりになってしまう働きがあります。わかったつもりで、ああ思っているだろう、と思っていると、気づいたときには全部誤っている場合があります。コミュニケーションの時間を確保していくことが大事です。僕は仕事だけしてはいけません、と思って長時間労働をやっていると、会話する時間もなくなり、いいや、いいやと思ってしまう。いつの間にか弱さ手紙があり、家を出ていられる。(笑)

萩原 男女の前に人間であり、それぞれの個性を大事にしているのは、重要だと思います。最近、おくなりになった電話作家のまど・みちおさんが作った「そうさん」という歌に込められたものが、実に重要だと思います。ちょっと皆さんと違ってかもしれませんが。



「そうさん、そうさん、おはなが長いのね。そうよ、母さんち長いよ」。

この歌はどんな歌でしょうか。これは子象が「そうさん、そうさん、なぜそんなに鼻が長いのか、彼たちと違うじゃないか」と、いじめられている歌のようです。それに子象が「そうだよ、僕はお母さんと同じで鼻が長いんだ」と涙を持って答えているのです。つまり、まど・みちおさんが私たちに伝えたかったことは、違いを認め合うことなんですよ。その違いを違いとして認め合って、お互いを理解していきましょうという思いが、「そうさん」に込められているそうです。今日、皆さんが出された最後までのめは、そういうことを理解したワンフレーズだったのではないかと思います。

では吉田さん、最後にメッセージをお願いします。

吉田 まずは個人が楽しく生きるのが、僕は絶対大事だと思っています。働くでも、楽しく働くべきです。働くということだけではなく、自分の中の人生、仕事でイコール人生、ではなく、自分の人生の中には、仕事もあるし子育てもある。地域との関わりもあるし、いろいろな関係を作っていくことを想像しながら行動していくと、自分がすべきことは何か、自然と見えてくると思います。

これから女性が社会進出するとされていますが、その割合の社会とは何をするのでしょうか。今の現状で、女性が社会に飛び込んでしまうと、恐らく長時間労働とか、厳しい労働環境などの中に女性を飛び込ませるようなことになってしまいます。そうではなく、男性が働き方を変え、新しい社会を作り、そこにお互いの向かっていくという方向性を作っていくってほしい。そのためには、男性がもっと強く意識して、全部自分が家事をやってくれるという気持ちでやってもらえたらいいですね。

萩原 21 世紀、新しい社会をデザインする皆さんは、今日をきっかけに多様な人生を選んでほしい。いろいろな生き方が選択できる社会を、本当にみんなと一緒に作ってほしいと、私自身も今日また実感しました。

アンケートより

■女子の声

色々な考えの人がいて、自分と違う視点からの考えがおもしろかった。将来のことを今までしっかり考えていなかったけれど、考えられたよい機会だったと思う。

他の意見を持った方とさまざまな意見を出し合うことによって、自分の考えが深まったり変わったりしていくことの楽しさを学ぶことが出来た。

男性について勘違いしていたことや思い込んでいたことがあったことに気がついた。お互い理解するところから始めるべきだと思った。

男女間の考えの違いはやはりあるものの、同時に共通の考えもあって共感できた。

男女の考えに大きな相違があると感じていたが、そこまで違いはなく、個人による違いだと気がついた。

男の人もちょうじょうこと（育児や家事）を考えているのだなぁと知って、それも私の中のステレオタイプだと気付きました。

お金に関しては、まだ男性の方が収入が多くなければならないという意見が多くて、私も前はそう思っていたけど、男性に頼って頼いでもらうのではなく、女性も頑張ってお互いに支えていくべきだと思うようになりました。

自分の認識がまだまだ幅の狭いものであることに気付かされました。たくさんの方の色々な視点を聞くことができてよかったと思います。男女で共通した意見もあれば異なる意見もあって、これからの私の人生にもつながる話が聞けたような気がします。

女子の中でも意見はさまざまでびっくりしました。「男女である前に人間」なので、性別関係なく人間個人として尊重し合っていくことが大切だと思います。

そもそも人間だ！っていう考えはたしかに納得できた。違いを認めて分かち合うことが大切だと思います。

今まで自分一人や身近な人とだけで考えてきた未来像を初めて会う同世代の人たちと共有することで、自分との共通点や違う点を見つけられて、すごくよい経験になった。

普段生活の中では話せない人と話すことで、これから違う未来へ向かっていくと思っていた人たちが、本当はみんなで一つの未来をつくっていくのだと感じた。

男性が想像以上に育休をとりたいと言っていてびっくりした。したい人はいるけど、出来ない社会なのだと思う。今を当たり前に常識と思うのではなく、1人1人が変えるべきと気づき行動していかなければならない。

どわかつたのが非常に新鮮でした。
——これらに生かしたいことなどありますか。

自分としては、これから結識したい相手が現れたり、コミュニケーションをとりお互いのことを理解し認め合える関係を作りたいと思います。

■男子の声

男女の関係については、何となく分かっていて自分の意見を持っているつもりだったけど、話し合いをしていると自分の考えの狭いところが分かった。もっと具体的に考えていこうと思った。

たくさんの人の意見を聞いて、また自分の意見を言うことで知識が深まり視野が広がった。自分の中での意識がガラッと変わった。

男女間には認識の差があることは前から理解していたが、その程度がとても大きい事に驚いた。しかし話し合えばわかることで相入れないようなことでもないと。お互いの事を考え思いやる。そしてそれを踏まえた行動をすれば男女が暮らしやすい世界となるのではないかと感じた。

自分の中にあった男女の壁について考え方が少し変わった。思ったよりも男女の考えに違いがなく共通の認識があった。

男女で共通した考えもあれば、全く違う考え方もあったのでとても新鮮でした。その「違い」を互いに理解するためにも、男女での話し合いが大切だと感じました。「本音」と「たてまえ」があって、その「たてまえ」に「本音」が近づいていくように、少しずつでも行動をおこしていきたいと思いました。

男と女を分けて自然と物事を考えていましたが分ける必要などなく、男も女も人間という考え方で共に多岐より共に尊重して社会に向けアクションを起こせばいいんだと感じました。

自分が思っていたより深い層に達した考え方をしていたことに気づいた。柔軟性が大切だと思った。選択肢は多種だということに気づいた。

文字としての男女共同参画、実態としての共同参画。いざ自分がやるとしての共同参画、自分が思い描いていることは全く異なる理想と現実とは違っていることが分かりました。特に男としての家事のイメージ、具体的な家族のあり方について考えたことがなかったのでもい経験になりました。

参加する前は、女性の社会進出や男女共同参画社会を作るためには法整備や社会制度の改革が必要だと思っていたが、実はそのような制度などはすでに整えられはじめていて、実現させるためには自分たちが何ができるかが必要だということに気がついた。

社会改革ばかりではなく、人としての尊重や愛情も必要だと感じた。

男女の価値観による違い、というよりも個人での違いということの方が大きかった。男、女で分けるのではなく、一人の人間として尊重を！

インタビューより



——参加して得るものがありましたか。僕はこれまで女性の考えを聞く機会がなかったのですが、女性の考えや思いといったものを共有することができ、とても有意義な時間でした。

——新鮮な意見等ありましたか。男が働くものという固定観念があったのですが、男性に支えてほしいという意見もあれば、私も働きたいから一緒に働こうという意見もあり、女性も様々な

だわかつたのが非常に新鮮でした。
——これらに生かしたいことなどありますか。

自分としては、これから結識したい相手が現れたり、コミュニケーションをとりお互いのことを理解し認め合える関係を作りたいと思います。



——参加していかがでしたか。

私は大学で環境活動をやっている学生団体に入っています。委員会で男の人が多い活動、女の人が多い活動と活動によって男女比率が偏っているんです。今回の「ワールド・カフェ」のような男女共同という視点はいいなと思いました。これを機に後輩たちにも伝えていきたいです。

——どのような理由でいらしたのですか。自分もともと男女共同参画について考えなくて、と思っていました。でも女性の生の意見を知らないと思い、実際に生の意見を聞こうと思って今回参加しました。

——参加されてみていかがでしたか。

家庭というものの捉え方が男性と女性でだいぶ違うなと思いました。女性の方

がより、子どものことや家庭のことをちゃんと考えているのだなという感じがしました。
——これから何かに生かそうですか。これから大学の中などでもちろん話し合えるような場をつくっていききたいなと思いました。



女性研究者が育つ社会

男女共同参画に向けた意識改革に、文科省生涯学習政策局男女共同参画学習課のワールド・カフェプログラムは、さまざまな応用の可能性をもつツールです。

いろいろな工夫が加わって、女性研究者が育つ社会の構築に役立つことを期待しています。